

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書		平成 29 年 6 月 6 日
滋賀県知事 三日月 大造 殿		
提出者 生産支援課環境保全チーム 清井 尚登 住 所 滋賀県湖南市柑子袋558番地 氏 名 カルビー株式会社 中日本事業本部 湖南工場 工場長 久保 進 電話番号 0748-72-2481		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。		
事業場の名称	カルビー株式会社 中日本事業本部 湖南工場	
事業場の所在地	滋賀県 湖南市 柑子袋558番地	
計画期間	1年間	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項		
①事業の種類	No.1279その他のパン、菓子製造業	
②事業の規模	204億3600万円	
③従業員数	282名 (平成29年3月31日現在)	
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙①参照	

(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙②参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（平成28年度）実績】 他の廃棄物は別紙③参照		
	産業廃棄物の種類	汚泥	植物性残さ
	排出量	2779 t	2972 t
	(これまでに実施した取組) * 植物性残渣 (馬鈴薯 [㊦] ・工程内不良・こぼれ削減)		
②計画	【目標】 汚泥 ^{3%} 削減 植物性残渣 ^{2%} 削減		
	産業廃棄物の種類	汚泥	植物性残さ
	排出量	2696 t	2913 t
	(今後実施する予定の取組) * 含水率の低減 * 一次処理コントロールによる排水処理、流入負荷量の低減 * 植物性残渣 (馬鈴薯 [㊦] ・工程内不良・こぼれ削減)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 分別品目—12
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 分別品目—12の継続

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
—			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
—			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（平成 28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
・ベルトプレス機による汚泥脱水			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	植物性残さ
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
* ベルトプレス機による汚泥脱水 前年比3%の削減			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（平成28年度）実績】 他の廃棄物は 別紙 ③を参照		
	産業廃棄物の種類	汚泥	植物性残さ
	全処理委託量	2779 t	2972 t
	優良認定処理業者への処理委託量	— t	— t
	再生利用業者への処理委託量	2779 t	2972 t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
(これまでに実施した取組)			
—			

②計画	【目標】 汚泥3%削減 ・ 植物性残渣2%削減		
	産業廃棄物の種類	汚泥	植物性残さ
	全処理委託量	2696 t	2913 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	— t	— t
	再生利用業者への 処理委託量	2696 t	2913 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
*汚泥脱水機による前年比3%の削減 *植物性残渣<馬鈴薯ロス・工程内不良・こぼれ削減>			
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

各産業廃棄物の処理の流れ（計画）・共通記入票（平成29年度＝2017年度）

廃棄物の種類	前年度の産業廃棄物発生量 平成28年実績 t/年	自社処理										委託処理後 (推計可)							
		①発生量 自社処理前の数量 t/年	②直接再生 利用量 t/年	③直接最終 処分量 t/年	④中間処理の			⑤残さ量 t/年	⑥自ら利用 他人売却量 t/年	⑦自ら 最終処分量 t/年	⑧処理委託 量 t/年	委託 番号 ※	⑨委託中間処理の			⑪残さ量 t/年	⑩委託直接 最終処分量 t/年	⑫委託中間 処理後 再生利用量 t/年	⑬委託中間 処理後 最終処分量 t/年
				量	種類※	熱利用の有無							量 t/年	種類※	熱利用の有無				
汚泥	2779	53920			脱水	無							2696	堆肥化	無	2696		2696	
植物性残さ	2972	2972											2972	堆肥化	無	2972		2972	
土砂	768	768											768	肥料化	無	768		768	
製品ロス	7	7											7	肥料化	無	7		7	
ロールフィルム	28	28											28	破碎	無	28		28	
廃プラ	165	165											165	焼却	有	165		165	
家電	1	1											1	焼却	有	1		1	
混合廃油	20	20											20	焼却	無	20		20	
蓄積汚泥	72	72											72	焼却	有	72		72	
洗浄汚泥	0	0											0	焼却	有	0		0	
分析廃液	3	3											3	焼却	有	3		3	
パウダー	4	4											4	堆肥化	無	4		4	
冷凍生地	209	209											209	焼却	有	209		209	
合計	7028	58169	0	0	0			0	0	0			6945	0	0	6945	0	6945	0

種類※・・・廃棄物が同一種類であって、焼却・破碎等の複数種類以上の中間処理を行う（行った）場合には、それぞれを段毎に記入すること。

委託番号※・・・別添票により番号毎に⑧→⑨、⑨、⑩、⑬の行き先等について記載し、添付すること。